

研究事業の実施体制の現状について

政府におけるがん研究

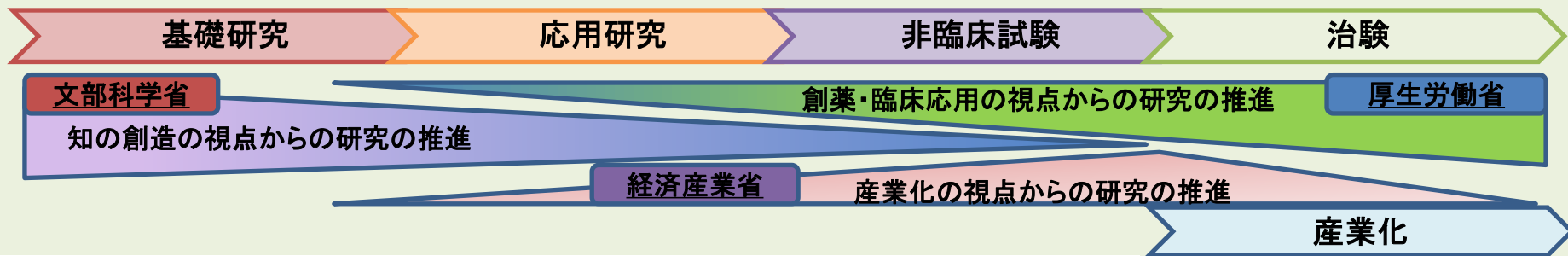
【各省における研究領域】

厚生労働省： 疾病対策、臨床応用の視点からの研究推進

文部科学省： 大学を中心としたアカデミアによる知の創造という視点からの基礎研究を中心とした研究の推進

経済産業省： 産業振興の視点からの実用化支援を中心とした研究の推進

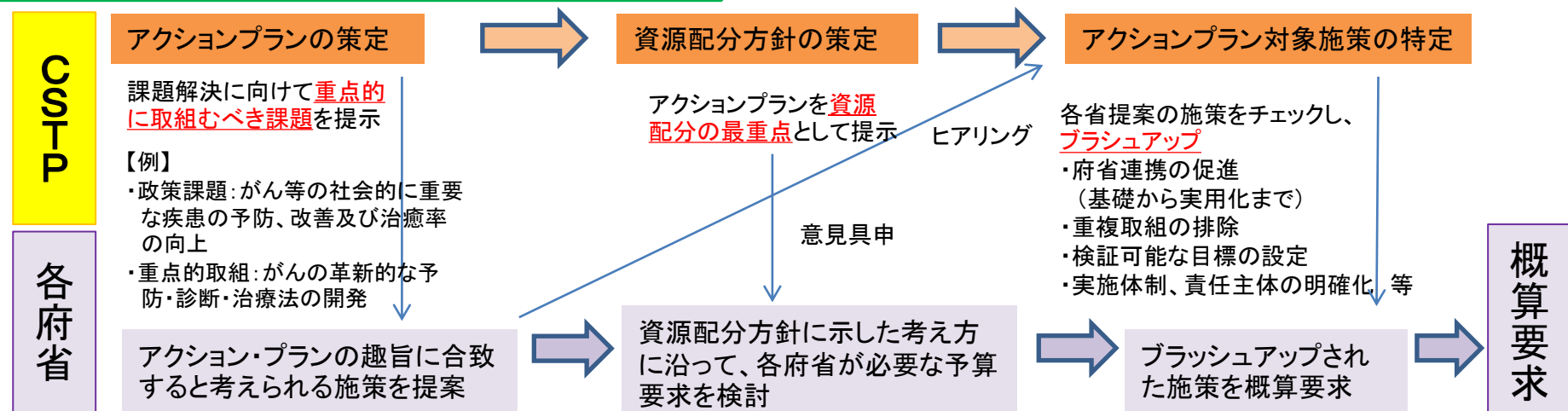
※例えば創薬開発等の場合



【科学技術重要施策アクションプランによる科学技術関係予算の重点化プロセス】

総合科学技術会議が、概算要求前にアクションプラン(「目指すべき社会の姿」、「解決すべき政策課題」及び「重点的に取り組むべき課題」)を提示し、科学技術関係予算の最重点化に向けて各省の施策を誘導

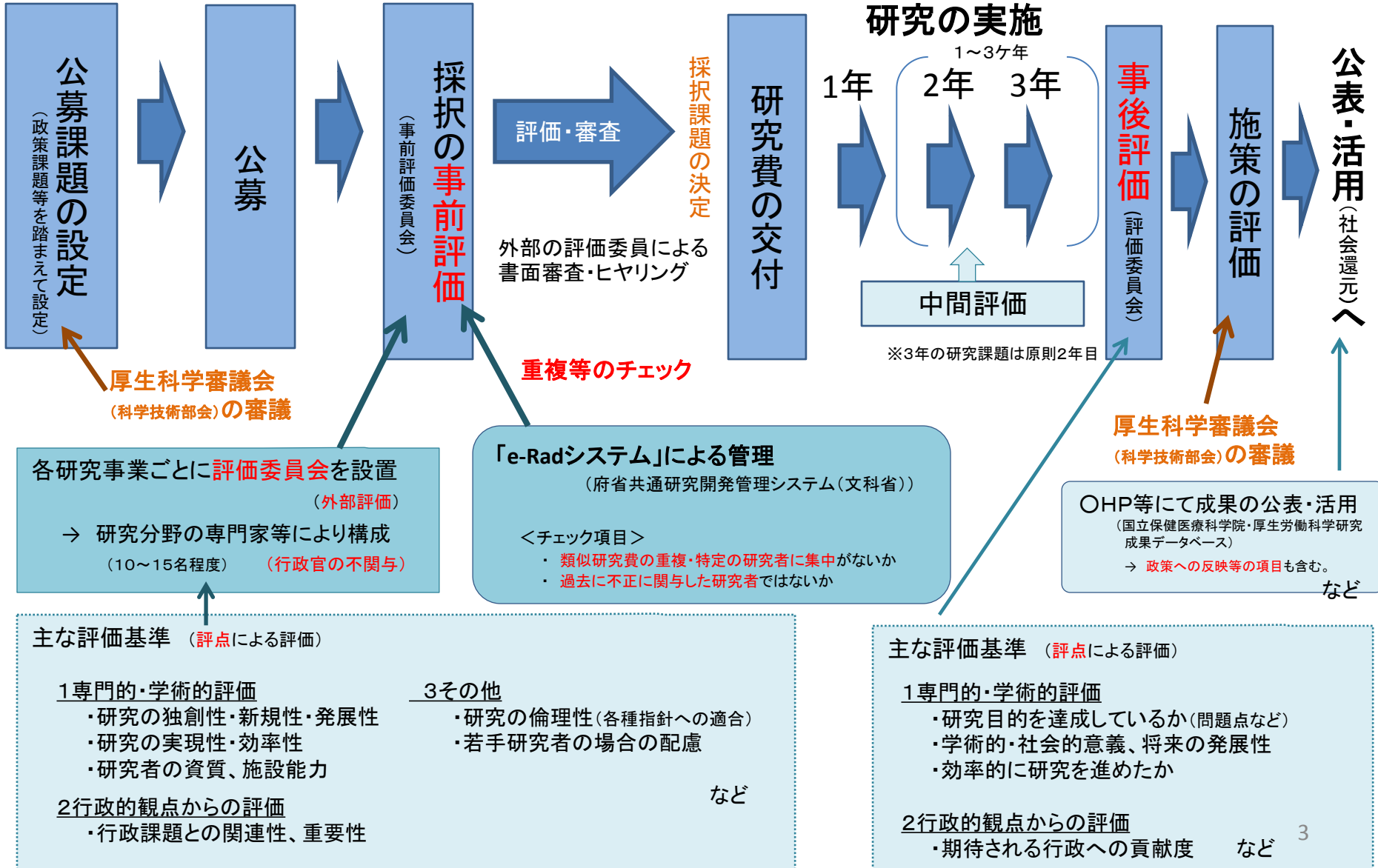
総合科学技術会議(CSTP)による研究施策の重点化(毎年)



※また、各省連携については、共同事務局の設置等による連携を実施しているところ。

厚労科研費の研究評価等の流れ

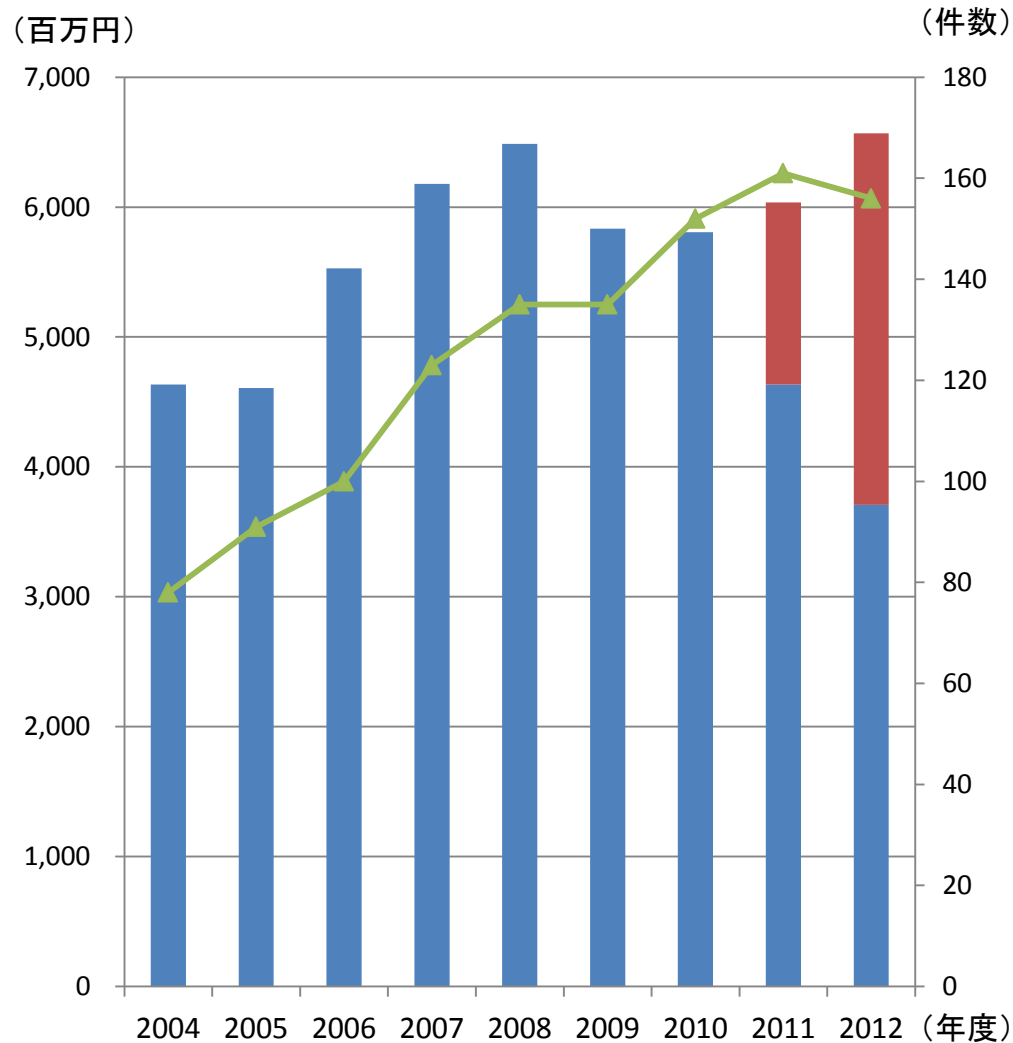
- 「厚生労働省の科学研究開発評価に関する指針」等に基づき、研究評価を実施。
- 事前・事後の評価を通じ、研究の内容を評価（成果についても公表）



第3次対がん総合戦略(厚労省部分)の研究費総額(H16~H24年度)

年度	研究費予算総額 (百万円)※	研究課題数	1課題あたりの 研究費交付額 (千円)
2004	4,634	78	44,253
2005	4,606	91	39,434
2006	5,529	100	37,382
2007	6,178	123	40,167
2008	6,486	135	38,429
2009	5,835	135	38,581
2010	5,806	152	35,384
2011	4,635	161	26,633
2012	3,708	156	22,113
合計	47,417	1,131	34,687

※推進事業費等を含む予算の総額



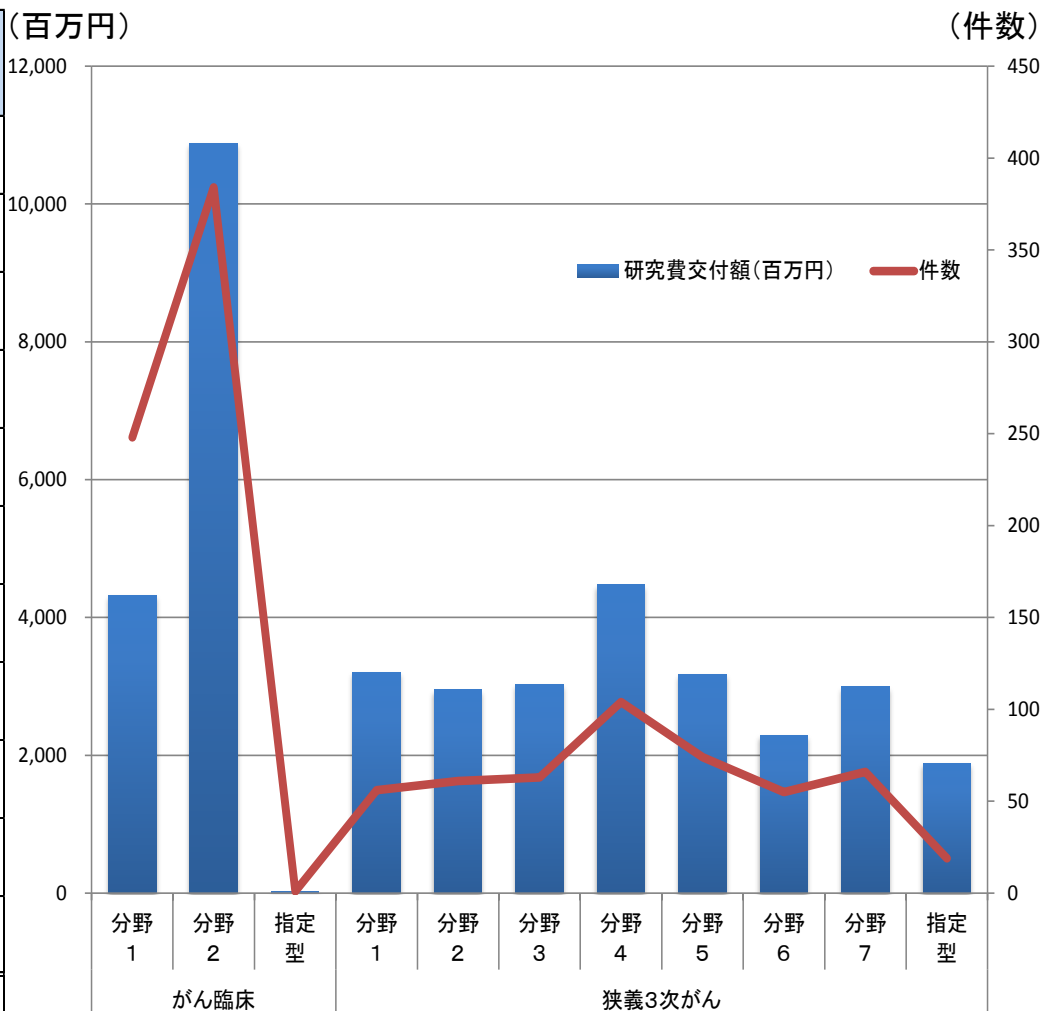
■ 難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業(がん関係研究分野)研究費

■ 3次対がん研究費

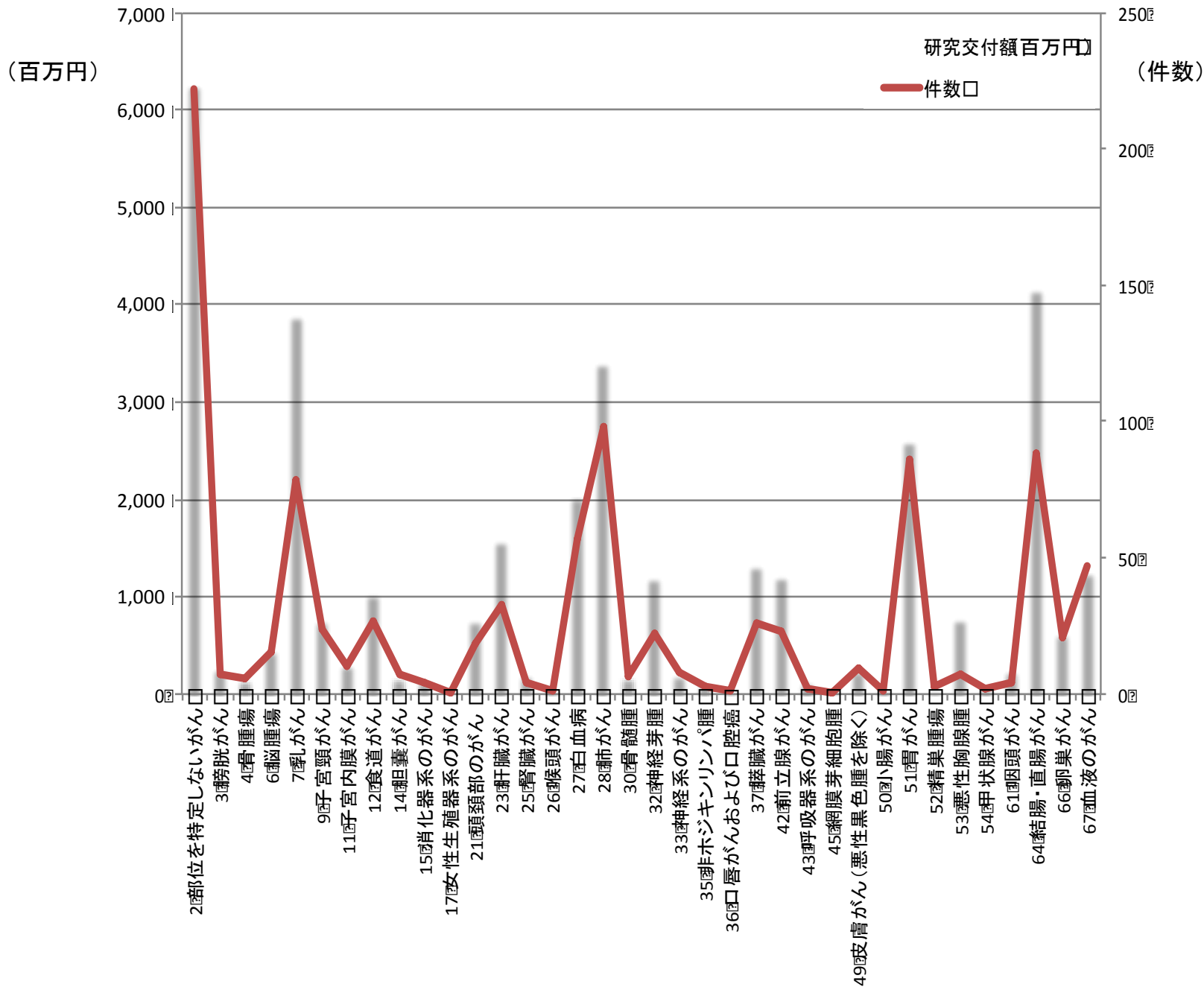
▲ 課題件数

第3次対がん総合戦略(厚労省部分)の研究費分野別(H16~H24年度)

		研究費 交付額 (千円)	件数	一件あたり 研究費交付 額(千円)
がん 臨床	分野1 主に政策分野に 関する研究	4,318,267	248	17,412
	分野2 主に診断・治療 分野に関する研究	10,880,761	384	28,335
	指定型	23,300	1	23,300
狭義 3次 がん	分野1 発がんの分子基盤に 関する研究	3,205,240	56	57,236
	分野2 がんの臨床的特性の 分子基盤に関する研究	2,946,237	61	48,299
	分野3 革新的ながん予防法 の開発に関する研究	3,034,233	63	48,162
	分野4 革新的な診断技術の 開発に関する研究	4,474,730	104	43,026
	分野5 革新的な治療法の 開発に関する研究	3,175,475	74	42,912
	分野6 がん患者のQOLに 関する研究	2,293,979	55	41,709
	分野7 がんの実態把握とがん 情報の発信に関する研究	2,992,860	66	45,346
	指定型	1,886,224	19	99,275
合計		39,231,306	1,131	34,687



第3次対がん総合戦略(厚労省部分)の研究費臓器がん別(H16~H23年度)

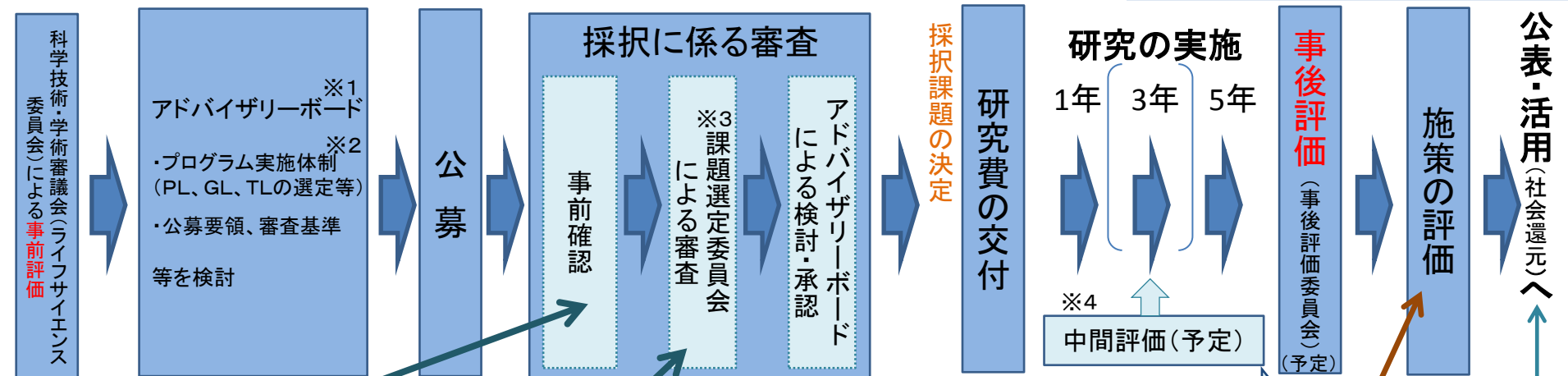
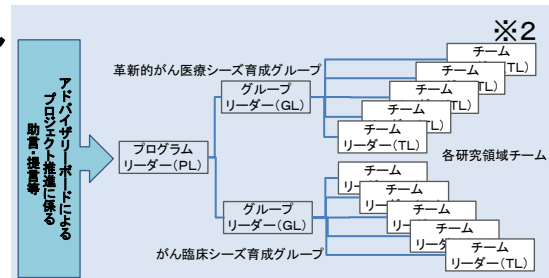


平成16年度～24年度厚労科研費(がん臨床・第3次対がん研究事業) のうち研究課題名に「高齢」が含まれるもの

事業名	分野	研究代表者	所属機関	研究課題名	開始年度	終了年度
狭義3次がん	分野5 革新的な治療法の開発に関する研究	西山 正彦	埼玉医科大学 医学部	高齢者がん治療アルゴリズム開発のためのガイドポスト・データベースの構築と必須情報及びその推定モデルの策定	21	23
がん臨床	分野1 主に政策分野に関する研究	明智 龍男	公立大学法人名古屋市立大学 大学院医学研究科	高齢がん患者の治療開始および中止における意思決定能力の評価およびその支援に関する研究	22	24
がん臨床	分野1 主に政策分野に関する研究	長島 文夫	杏林大学 医学部	高齢がん患者における高齢者総合的機能評価の確立とその応用に関する研究	23	25

次世代がん研究シーズ戦略的育成プログラムの研究評価等の流れ

- 「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」等に基づき、研究評価を実施。
- 事前・事後の評価を通じ、研究の内容を評価（成果についても公表(予定)）



重複等のチェック

「e-Radシステム」による管理
 (府省共通研究開発管理システム)
 <チェック項目>

- ・類似研究費の重複・特定の研究者に集中がないか
- ・過去に不正に関与した研究者ではないか など

ピアレビュー

審査に当たっての着目点 (評点による評価)

- 1 公募要領に示された領域の研究概要との整合性
- 2 研究目的の独創性、妥当性
- 3 研究計画、研究方法の妥当性、適切性
- 4 研究経費の妥当性
- 5 研究組織、研究遂行能力の適切性

科学技術・学術審議会
 (研究計画・評価分科会)の審議(予定)

○HP等にて成果の公表・活用(予定)
 → 政策への反映等の項目も含む。
 など

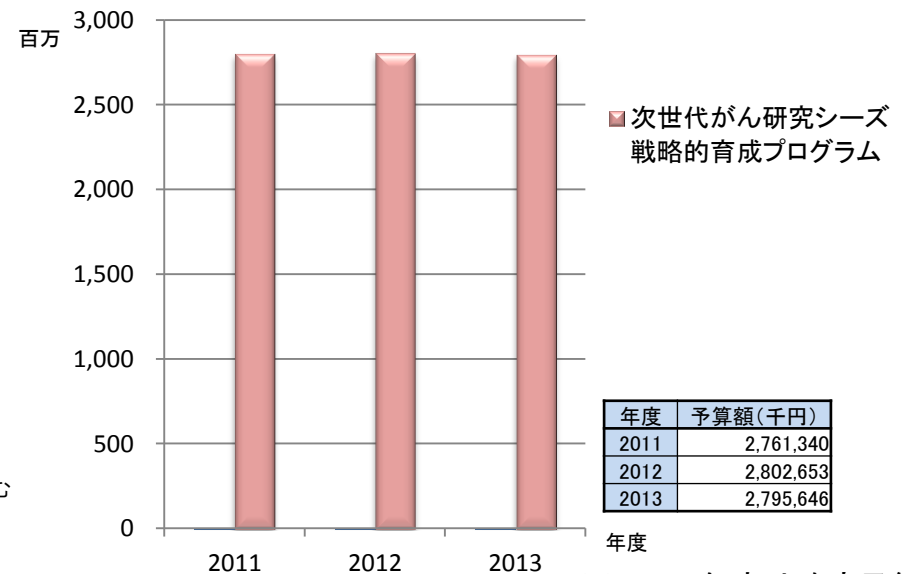
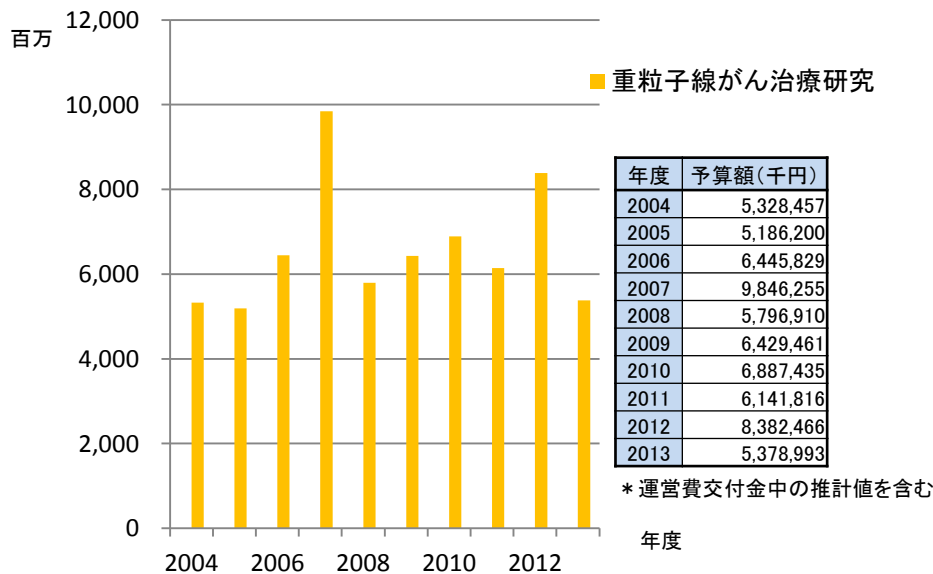
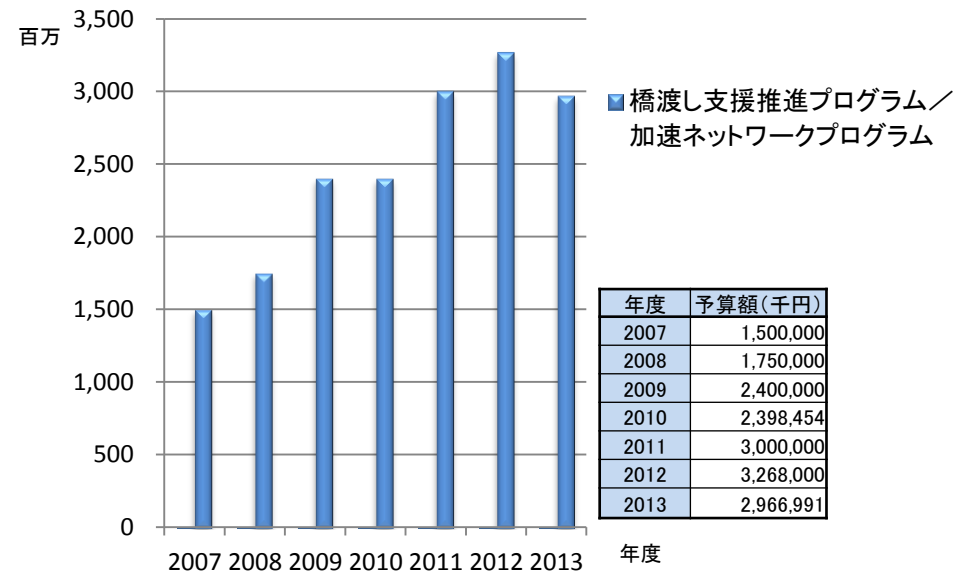
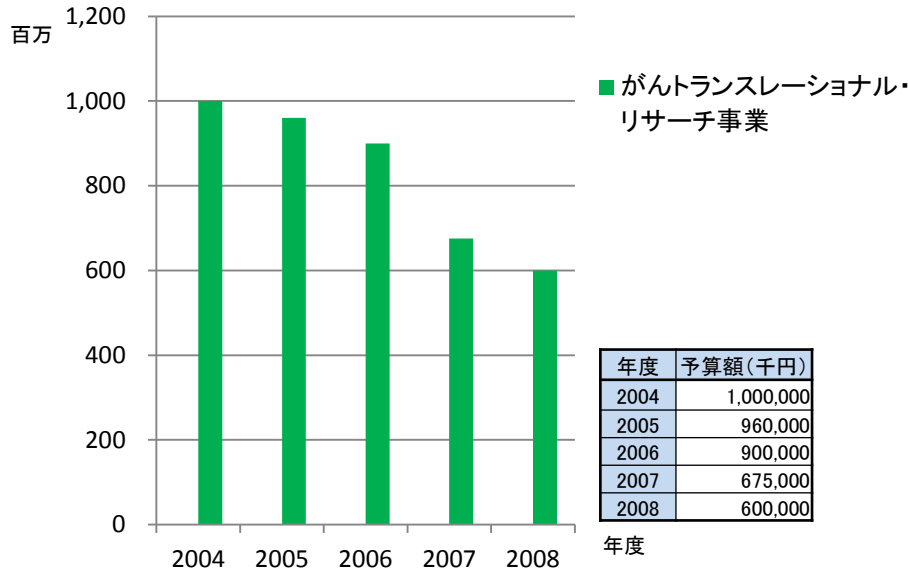
※1 **アドバイザーボード**
 → 当省関連プロジェクト及び関係府省関連プロジェクトの参画研究者や、評価委員等を含む学識経験者・患者代表・マスコミなど幅広い分野からの有識者で構成(14名)

※3 **課題選定委員会**
 → アドバイザーボード委員、GLに加え、当省関連プロジェクト及び関係府省関連プロジェクトの参画研究者や、評価委員等で構成(15名)

※4 **中間評価委員会**
 → 課題選定委員会委員を含まない委員で構成する委員会において評価を実施し、アドバイザーボードに報告(予定)

事務局：関係省庁による共同事務局で運営

第3次対がん総合戦略(文部科学省部分)に係る 研究費(予算額)推移(H16~H25年度)

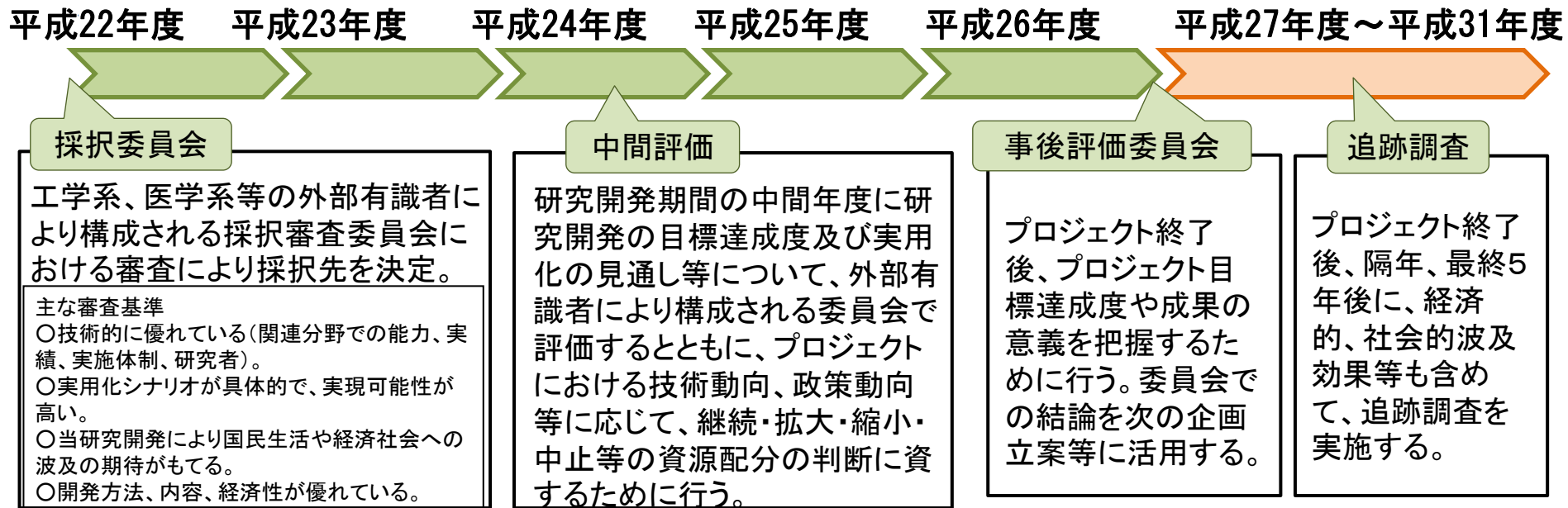


※ 2013年度は政府予算案

NEDOにおける研究開発事業の評価体制

(がん超早期診断・治療機器総合研究開発プロジェクト)

- 開発委員会、運営会議及び中間評価の実施といったプロジェクト内外による評価体制により、プロジェクトの進捗を評価し、進捗状況、外部環境の変化に応じた柔軟な体制変化を行う。
- プロジェクト終了後も事後評価、追跡調査を行い今後のプロジェクト立案時に活用する。



プロジェクト全体の運営会議、サブプロジェクトごとの開発委員会を実施し、進捗状況を確認し、研究開発の方向性、事業化に向けた体制構築等について確認・議論を行う。

運営会議

年1～2回開催。年度計画に記載された年度目標に基づき、プロジェクト全体運営委員によるプロジェクト全体の進捗についての議論を行う。

開発委員会

年2回程度開催するサブプロジェクト開発委員会で、委託先の実施計画書に基づき、サブプロジェクト開発委員によるサブプロジェクト進捗度の確認・議論を行う。

経済産業省におけるこれまでのがん研究

患者のQOL向上と我が国医療機器・医薬品産業の競争力強化を図るために、産学連携による研究開発体制を構築し、最先端の医療機器・創薬基盤技術の開発を行ってきた。

2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015

悪性腫瘍等治療支援分子イメージング研究開発プロジェクト

(総額 35億円)

生体細胞の分子レベルの機能変化を早期に描出・検出できる分子イメージング診断機器の開発。

新規悪性腫瘍分子プローブの基盤技術開発

(総額 3.7億円)

がん超早期診断・治療機器の総合研究開発

(総額 49億円(2013年度現在))

がんを早期に発見し、多様な治療法の選択が可能となることを目指し、治療方針を決定するために必要ながんの性状・位置等の情報を確実に取得する技術及び、得られた診断情報に基づいてより侵襲性の低い治療を可能とする技術の開発。

内視鏡下手術支援システムの研究開発

(総額 28億円)

基盤技術研究促進事業
／高精度四次元放射線治療装置システムに関する開発研究
(総額 3.1億円)

IT融合システム開発事業

(総額 2.5億円(2013年度現在))

診断と治療を貫くがん診療支援システム開発を行う。特に、病理IT化と放射線治療計画支援システムの開発を重点的に行う。

深部治療に対応した次世代DDS型治療システムの研究開発

(総額 9.5億円)

外部エネルギー(光・レーザー・超音波)と薬剤を組み合わせたDDSの開発。

基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発

(総額 138億円、うちがん関連テーマ 46億円)

基盤研究成果の臨床応用への推進により新たな医療・治療が期待される「創薬」、「診断」、「再生細胞医療」、「治療機器」の4分野における技術開発。総合科学技術会議の下、文部科学省及び厚生労働省と連携して橋渡し研究の強化に一体的に取り組む。

後天的ゲノム修飾のメカニズムを活用した創薬基盤技術開発

(総額 19億円(2013年度現在))

後天的ゲノム修飾を高感度に検出する基盤技術の確立、後天的ゲノム修飾を引き起こす因子の同定、探索的臨床研究を通じたこれら因子の医薬品・診断薬標的としての妥当性の検証。

医療機器

創薬基盤